

ハイテク、供給不足「最悪期」は通過の予兆 在庫率上昇で在庫確保の動きも、関連株を下支え

2022/6/1 (水)

日本の4月鉱工業生産ではハイテクに関連した電子部品・デバイス工業で、供給不足に「最悪期通過」の予兆が見られ始めた。4月は中国の対コロナ制限などで生産、出荷ともに減少したが、在庫と出荷の需給バランスを示す在庫率は23カ月ぶりの高水準となっている。世界減速などによる悪い在庫増も懸念されるが、昨年以降は供給不足と在庫不足が問題になっており、一定部分は良い在庫確保が示唆されている。生産予測は5、6月と連続で前月比+10%超の大幅増であり、急落してきたハイテク関連株の下支え要因として注視される。

電子部品・デバイス、生産予測は反動急増

「ソニーグループは半導体などの部品の不足により伸び悩んでいる主力ゲーム機PS5の生産に関して、2022年は大きく増やすと説明。サプライチェーン（供給網）の制約が緩和しつつあり、部品不足は改善が進展。供給対策として複数サプライヤーからの部品調達、物流ルートを確保するための交渉を継続」（5月26日の事業説明会）、「台湾自動車販売最大手の和泰汽車（トヨタ自動車系）は、自動車の部品供給不足は下半期（7-12月）に緩和に向かうとの見通しを発表」（5月30日）、「台湾の鴻海（ホンハイ）精密工業は、中国上海市のロックダウン（都市封鎖）が緩和されるとみられる中、今年下半期に向けて電気自動車（EV）用半導体の生産能力拡大や供給網安定に自信を示す」（5月31日）――。

ここに来てハイテク関連では根深い半導体不足などの供給制約に関し、前向きな見通しが散見され始めた。

韓国では5月26日にかけて、尹錫悦新政権が掲げる「民間主導の経済成長」に呼応する形で、主要企業6グループが3カ年や5カ年の中期投資計画を相次いで打ち出している。総計は94兆6000億ウォン（約94兆4000億円）に及んできたが、この中には半導体や新成長IT（情報通信）の供給増強も含まれている。

もちろん、ハイテクの供給については世界最大の半導体メーカー、米インテルのCEO（最高経営責任者）が5月27日、「2年に及ぶ半導体不足は、2024年いっぱいまで続く」と述べるなど、完全修復はまだ尚早だ。

日本の4月鉱工業生産でもハイテクに関連する電子部品・デバイス工業については、中国での対コロナ制限強化などもあって、生産、出荷、在庫の各指数（2015年=100）が全て前月比で低下している。一方で在庫と出荷の需給バランスを示す在庫率指数

は91.8と、前月の85.5を含めて2カ月連続で上昇となった。最近では2020年5月以来、23カ月ぶりの高水準となってきた。

現在は米中を含めた世界経済の減速が懸念されており、「悪い在庫増」の可能性もはらんでいる。しかし、ハイテク関連は昨年以降、供給不足や在庫不足が重石になっており、その中での出荷制約との見合いでの在庫率上昇は「一定部分の良い在庫確保」を示唆するものだ。

実際、生産予測調査で電子部品・デバイスは、5月が前月比+10.1%、6月が+10.7%と連続での2桁伸び率が見込まれている。過去20年では前例のない生産の反動増予測だ。悪い在庫増の局面ではこうした生産の大幅増とはならないため、今後は段階的ながらも、良い在庫確保と出荷の目詰まり改善、連動した生産の増加という好循環入りが注目される。

しかも6月に向けては、中国でのロックダウン解除と経済対策の強化、米国債金利の急上昇一服など、世界のハイテク業界と関連株にはプラスの材料が出てきている。先行き不透明感に残存しているものの、ハイテクの供給不足やハイテク関連株の急落については「一旦の最悪期通過」が注目されそうだ。

米株SOX、長期の重要下値抵抗線で急落一服

ちょうど米国の代表的なハイテク株指数であるフィラデルフィア半導体株指数（SOX）は、3月後半からの再下落を経て、5月12日から下げ渋りとなってきた。現状の安値は5月12日の2754となっているが、月足テクニカルでは重要な長期下値抵抗線である一目均衡表の基準線2741、36カ月移動平均線2571（各5月30日時点）などへの接近で急落一服となってきた。

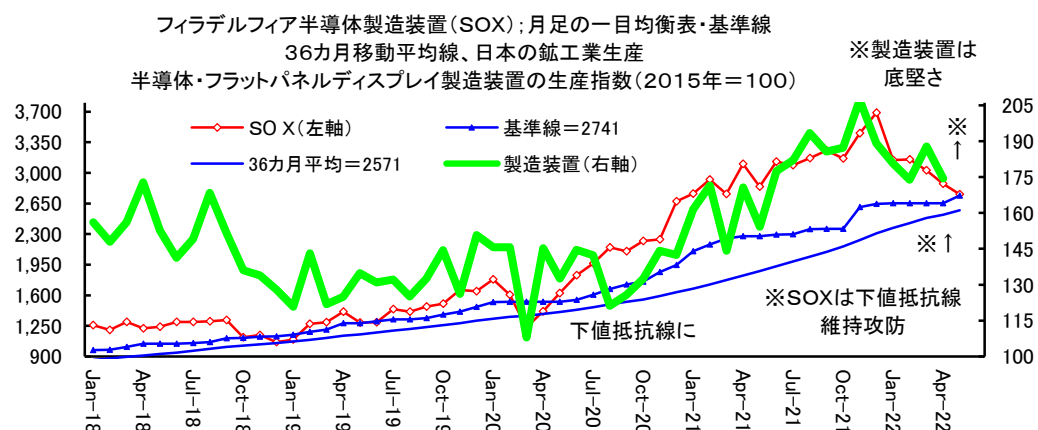
先行き両ラインまでの下落や短期的な下押しリスクは残るものの、中長期スパンでは「一旦の買い場」が焦点となる。しかも月足の一目均衡表で相場の方角性を示唆する遅行スパンの角度は、5月から上向き化へと転じ始めた。5カ月ぶりの上向き回帰であり、過去5カ月前後に及んだ急落の一服と一旦の反発局面入りが注目されそうだ。

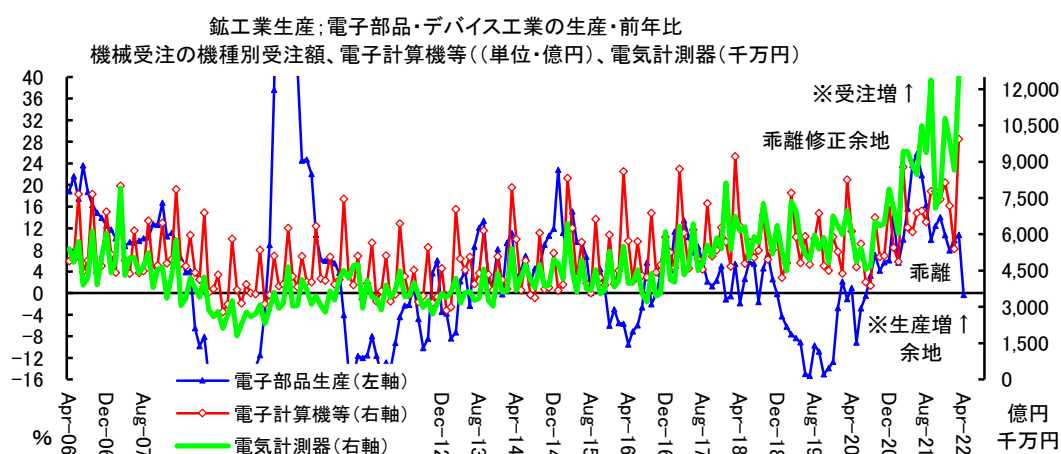
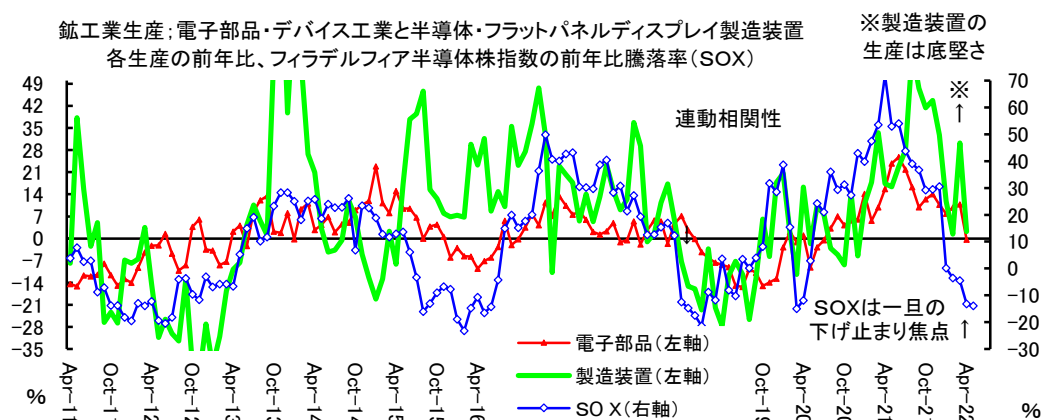
過去の日本の鉱工業生産の循環サイクルでいえば、内外での需要増の局面で出荷増、生産増となり、良い在庫増へと波及。その後、需要と出荷が減速するに連れて、悪い在庫の積み上がりとなり、在庫調整から生産調整の各減少に向かっている。

ひるがえって現在のハイテク関連の場合は、昨年からの世界的にデジタル関連やメタバース関連といった需要は残存しながらも、半導体不足などの供給不

半導体を含めた根強いハイテク需要を示す形で、機械受注では機種別で電子・通信機械の受注増加が維持されたままだ。3 月には電子計算機等が前年比+13.1%、電気計測器が+32.6%と高止まりしてい

前回、装置の生産が急増した 2014 年 2 月の場合、「11 カ月後」となる 2015 年 1 月に電子部品・デバイス工業の出荷指数は前年比+20.6%へと運行改善していた。最近では同製造装置の生産が 2017 年 1 月に+47.7%へと増加したが、電子部品・デバイスの出荷は「3-6 カ月後」にかけて+10%から+11%に増加するという稼働効果が確認されている。





お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。本レポートの内容は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。